

## 米品質向上めざす カメムシ類早期対応を



▲穂肥施用のポイントを説明するJA担当職員

JAは7月上旬の4日間、JA管内19カ所で稲作現地指導会を開きました。生産者ら450人が参加。穂肥の施用時期や病害虫対策など今後の管理技術を確認しました。

7月10日時点では市内の「コシヒカリ」の生育は、草丈が「短い」、茎数が「やや多い」状況。葉齢の進みは「早い」、葉色が「やや淡い」となっていました。

営農生産部米穀販売課は「1回目の穂肥が施用できる時期に来ている。水田ごとに必ず幼穂長を調べて出

穂前日数を診断し、時期と量を判断してほしい」と呼び掛けました。

穂肥施用のポイントとして、①2回目は後期栄養維持へ確実に施用②出穂前10日以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しない③穂肥は必ずかん水して施用する——と説明しました。

県内全体で斑点米カメムシ類の発生程度が近年より多いことから、速やかに草刈りを行うよう対応を求めました。

## 園芸チャレンジして 先輩生産者が助言

[小千谷市園芸振興協議会]



▲生産者から養液土耕栽培の説明を聞く参加者

7月1日(水)、メロンやスイカ、サトイモなどの新規生産者の確保に向けて小千谷市園芸振興協議会は、園芸圃場見学会を市内6カ所で開きました。本格的な園芸栽培や園芸品目の拡大を検討する農家が対象で17人が参加しました。昨年は8人が参加し、新規生産者1人が誕生しています。

見学会は、先輩生産者の畑を見たり、話を聞いたり

して園芸生産に興味を持ってもらうもの。今年で3回目の開催。同協議会の永野敏行会長は「生産者が直接、説明をするので、分からないことや疑問があれば聞いてほしい」とあいさつしました。作物の特性や収穫時期、作業の流れを学びました。

同協議会は、市内の園芸生産組織やJA越後おぢや、行政などをつくります。

JAは今年、管内6カ所に、実証圃を設置して直接、園芸農家の声を聞ける場を用意しました。農家所得の増大を目指し、稲作と園芸の複合経営を推進しています。現在は6品目ですが、今後は品目を拡大していきます。

## 山桜チーム2連覇達成

▶優勝に喜ぶ山桜チームの皆さん



7月24日(金)、JAは、吉谷トレーニングセンターのグラウンドで、年金友会の後援で、JA越後おぢや組合長杯争奪ゲートボール大会を開きました。市内各地から13チーム、80人を超える愛好者が参加。時折雨が降る中、試合が行われました。競技の結果は、城川支店管内の山桜チームが優勝し、2連覇を達成しました。

## 高品質米の維持を



▲圃場で生育状況を確認する伊藤忠食糧の部長ら

7月9日(木)、ファミリーマートに当JA産コシヒカリを卸す伊藤忠食糧株の米穀営業第一部長らが、産地訪問のためJAに来協されました。市内の圃場や第2カントリエレベーターなどを巡回。生育状況や色彩選別機などを確認しました。同社からは「今年度も高品質米の維持をお願いしたい」と要望がありました。

## 雨にも負けず好プレーを展開

[JA片貝中央支店]



▲表彰式にて

6月28日(日)、片貝中央支店は、長岡カントリー倶楽部で、第22回JAゴルフクラブコンペを開催しました。同支店管内の組合員や地域住民ら27人が参加しました。結果は、片貝町茶畑の佐藤重男さんが優勝しました。参加者は、大雨と強風の中、気迫溢れるプレーを展開し、ふれあいの一日を過ごしました。

## 田中裕己さんに栄冠



▲優勝カップを手にする田中さん(右)

7月17日(金)、小千谷カントリークラブにて、第12回JA越後おぢやゴルフコンペを開催しました。組合員や地域住民、JA関係者ら178人が参加。競技の結果は、南部支店管内の田中裕己さんが優勝しました。参加者は、日頃の練習の成果を存分に発揮し、熱の入ったプレーを繰り広げました。

## 箱根や富士山を満喫

[JA年金友の会]

▼富士山の合目について



7月12日(日)・13日(月)、JA年金友の会は、親睦旅行「伊東温泉ホテルサンハトヤと富士山をめぐる旅」を行いました。  
初日は「箱根神社」や箱根駅伝の往路ゴール地点で知られる「箱根駅伝ミュージアム」を見学。翌日は富士山5合目まで登り、その後は「忍野八海」を観光。日本最高峰の富士山を満喫し心に残る旅となりました。

## 組合員・地域住民と交流深める

[片貝中央支店]



▲にぎわいをみせるフェスティバル会場

7月18日(土)、片貝中央支店は、支店活動強化の一環としてJA片貝車輛農機センター前広場で、JAフェスティバルを開きました。  
組合員や地域住民との交流を目的に毎年開いており、今年も約800人が来場。新潟のお笑い集団「NAMARA」の漫才や、小千谷産スイカ割り大会など、多彩な企画で来場者を歓迎しました。

## 支部役員が意見交換

[JA女性部片貝支部]



▲翡翠園にて

6月13日(土)・14日(日)、JA女性部片貝支部は、役員研修を糸魚川市の笹倉温泉龍雲荘で行いました。  
会議では、ひとり暮らし高齢者への声掛け訪問や、JAフェスティバルでの活動を議題に挙げ、意見を交換しました。  
1日目は糸魚川市内、2日目は富山県黒部市を観光。支部役員との親睦を深めました。

## 自然に囲まれハーブティー楽しむ

[JA女性部]



▲ハーブランドシーズンにて

7月5日(日)、JA女性部は、日帰り研修旅行を新潟市内で行いました。  
参加者は、佐潟のほとりにある、豊かな自然に囲まれた体験型ハーブ園「ハーブランドシーズン」で、ハーブティーを飲んだり、園内を散策したりして楽しみました。また「いくとびあ食花」も訪れ野菜の直売所を見学。各支部を越えて部員相互の交流を深めました。

## 千田支店窓口担当者 最優秀賞



▲最優秀賞に選ばれた千田支店の山田窓口担当

7月4日(土)、JAは、本店でJA共済カウンターセールスコンクールを行いました。同コンクールは、組合員や地域住民に充実した保障を提供する目的で開催。全6支店から選ばれた2人1組のペアが、窓口担当者役と利用者役(ふんし、日頃の成果を発表しました。最優秀賞に千田支店の山田千帆と大塚秀和のペアが選ばれました。

## 600体超す人形を供養

[虹のホールおぢや]

▶人形に感謝を伝えた供養祭



7月18日(土)、JAは、虹のホールおぢやで人形供養祭を開きました。組合員ら60人余が参加し、600体以上の人形を供養しました。参加者は、これまでお世話になった人形へ、別れと感謝の気持ちを伝えました。同日には終活セミナーも開催。司法書士の星野哲也さんを講師に「相続について」と題した講演と個別相談を実施しました。

## 病院での安全の仕組み

JA新潟厚生連 魚沼病院  
看護師長 澤 中 直 美

医療の現場では、職員の不注意により医療上望ましくない事態を引き起こし、患者様の安全を損なう結果となることがあります。そこで、患者様が安心して安全な医療を受けていただける環境を整える仕組みづくりをしています。

日常の病院内では、患者様に害を及ぼすことはなかったが一歩間違つと…という、「ヒヤリとした」「ハッとしたり」ことや、間違つた事が発生して処置が必要となった事例などを報告する仕組みがあります。

ヒヤリハット報告は全体の80%が看護部からの報告です。看護師は、注射を行う・採血を行う・薬を飲ます・色々な管を入れる・お風呂の介助・食事の介助等、24時間間わたり患者様と関わっていることが理由です。また、報告書には「転倒・転落」「管類のトラブル」が全体の50%を占めています。つぎに「お薬に関連した内容」が多い項目です。

高齢者の入院患者様も多く、普

段自宅では問題なく自分の事を行えた方も、入院という環境の変化で認知力が低下したり、点滴やおしっこを不快なものとして扱ってしまう事もあります。また、脱水、肺炎などでしばらくベッド上の状態が続く、その後病状が改善して歩き始めると、体力低下からふらつき転倒してしまうケースも多く見られます。その為、私たち看護師は普段の患者様の状態をご家族の方から聞き、「今は具合が悪く動きは少ななくても、状態が改善した時には歩ける方なのか」「歩行はしっかりしているのか」「認知力の低下はないのか」などの情報から色々な職種が集まり、個々の患者様に合った安全対策をたてています。

住み慣れた家から家族と離れ入院という環境で、生活しなければならず、患者様は非常に不安になります。ご家族様が側にいる事により安心されますので、是非面会をお願ひしたいと思います。

看護部は患者様の一番近くにいる存在であり、思いやり・いたわり・優しさを持って接していきまします。患者様に寄り添いながら思いを受け止め、患者様、ご家族様と一緒に良い方法を考えながら、安心・安全な看護・介護を提供していきたいと思ひます。